第五回 沖縄国際映画祭
5th OKINAWA INTERNATIONAL MOVIE FESTIVAL
琉球新報
THE RYUKYU SHIMPO
PR 特別版
2013年(平成25年)
3月25日（月）
[旧2月14日・先負]
企画・制作／琉球新報社 広告局
〒900-8525 那覇市天久905

〝カワイイ〟満開 美の祭典

ちゅらイイ GIRLS UP！ステージ

有名モデルに熱狂

春を先取りした鮮やかなピンクのワンピースで登場した芹那

特設ランウェイを闊歩するカリスマモデルたちに観客は熱狂

ファッション、ビューティー、ミュージック、コメディの4分野を融合させたエンタテインメントショー「ちゅらイイ GIRLS UP！ ステージ」が24日午後3時から、宜野湾市のビーチステージで開催された。ときどき小雨が降るあいにくの天気ながら、客席は満席で立ち見の観客が幾重にも周りを取り巻くほど。華やかな有名モデルや人気芸人の登場に会場は熱気に包まれた。

ファッションショーでは芹那、道端アンジェリカ、エリーローズ、紗羅マリー、秋本梢ら人気モデルが、ポップな明るい配色の服から大人びたシックな服まで、最新トレンドファッションを身にまとい特設ランウェイを颯爽と歩いた。

ジャルジャル、しずる、渡辺直美、COWCOWらお笑い芸人も普段とは異なるブランドファッションで参加、モデルばりのポーズを決めていた。NMB48のメンバーはアイドルらしいかわいらしい仕草で観客の声援を浴びていた。トップスタイリストによるヘアスタイルチェンジショーでは、アジアンの隅田美保やハリセンボンの箕輪はるかも斬新なヘアスタイルでステージに現れた。

ショーとショーの間には、司会を務めたピースとハリセンボン・近藤春菜が、参加した人気モデルやお笑い芸人と軽妙なトークを繰り広げ客席の笑いを誘った。

「お気に入り」というkitsonのバッグを下げた芹那は「初めての沖縄だったけれど、みんなが盛んに手を振ってくれたので楽しかった」と語った。

ガールズアーティストのYU−Aとfumikaの音楽ライブもあり、アップテンポな曲やビートのきいた曲で会場の一体感を盛り上げた。

ラストは登場したモデルが勢ぞろいし、超満員の観客に挨拶

Pachinko Movie Award

村上ショージら優秀賞

ぱちんこのリーチ映像ナンバーワンを決める「Pachinko Movie Award 2013」が24日午後5時から、宜野湾市の沖縄コンベンションセンター内に設けられたラフピータウンで開催された。

芸人による作品同士が競う「GEININ部門」では、ギャグを連発する村上ショージの作品が、一般から幅広く募集した「IPPAN部門」では、浮気を見つけた妻の攻撃を耐える夫をテーマにした『修羅の朝』がそれぞれ優秀賞に選ばれた。KYORAKUぱちんこのリーチ映像から選ばれる「KYORAKU部門」では『ウルトラ6兄弟SPリーチ』が優秀賞に決まった。

平成ノブシコブシがMCを務め、ぱちんこ好きで知られる椿鬼奴、博多華丸らがゲストとして参加。候補作品を見ながら、ぱちんこ談義に花を咲かせた。審査委員長を務めた木村祐一は「一般の人たちの映像が素晴らしく、質の高さに驚かされた」と話していた。

MCの平成ノブシコブシも自らのギャグをネタにした「GEININ部門」に出品したが、ぱちんこ好きの椿鬼奴に一蹴され、受賞を逃した

シーサーだより ③

世界から人が、作品が集まり沖縄が交易の場になる。その役割を担うのが沖縄コンテンツバザール。映画祭とは単にフィルムを借りて上映するだけではなく、古代パキスタンのペシャワールが東西の隊商の物々交換や文化の融合地だったように、異国の人々が集い情報交換し「場」を醸成していくものだ。▼観光や特産品で盛り上げて土地の魅力を高めてこそ、人は沖縄を目指して遠路はるばるやってくる。まずは沖縄観光コンベンションビューロー安里繁信会長によって、その魅力についての議論がなされた後「アジアコンテンツパネルディスカッション2013」が開催された。香港、台湾、韓国、台湾、タイから7名、日本からは東京、大阪キー局の全10局の担当者がずらりとテーブルを囲む。▼主にテレビ番組の共同制作、輸出入に関する忌憚のない意見交換だったが、耳が痛かったのは「日本の番組を買おうとしても版権処理に時間がかかって、いざ放送する時には旬を過ぎてしまう」「韓国のドラマは権利処理を終えて、政府の支援を受けて売り込みに来るのですぐ使える」という意見。▼今後求められる課題は次の三つだろう。1）スピード 2）韓国的な視聴者主導の番組作り 3）企画の段階での共同制作。議論はまさに白熱し、朝まで聞きたかったほどだ。▼この日は、「ドクターX〜外科医・大門未知子〜」を大ヒットさせたテレビ朝日の内山聖子プロデューサーと脚本家・中園ミホによる対談など盛りだくさんなセッションが並んだ。沖縄は世界中のクリエイターが集い、エンタテインメントの明日＝夢を語り合う場になりつつある。

（麻生香太郎）

どこか懐かしい下町風情

総合演出・福田氏や位部監督らに聞く

人の繋がりの大切さ描く人情喜劇映画

『泣いたらアカンで通天閣』

大阪・新世界のラーメン屋を舞台に、破天荒な父と元気印の娘との交流を軸に、人の繋がりの大切さを描いた人情喜劇映画『泣いたらアカンで通天閣』。総合演出の福田浩之、監督の位部将人、主演の木南晴夏、子役の首藤勇星に作品の見どころなどを聞いた。

◆　◆

福田「僕の実家は新世界で、かねがねネイティブな関西弁を使えるスタッフ&キャストと一緒に、現在のありのままの大阪を描いてみたいと思っていまして、今回企画させてもらいました」

位部「演出のポイントは、とにかく木南晴夏にどぎつい大阪弁をしゃべらせる(笑)。また大阪には漫才文化がありますが、わいわいガヤガヤとした2ショットを撮り続けることで、大阪の人間のデタラメさや弱さといった、世間的にはマイナス・イメージで言われるようなことが愛おしく思えるような作品に仕上がったと自負しています」

左から、監督の位部将人、主演の木南晴夏、子役の首藤勇星、総合演出の福田浩之。インタビュー中も終始、和気あいあいとした雰囲気だった

大杉漣と木南晴夏が、不器用だが真っ直ぐな愛で繋がった親子を演じる　©讀賣テレビ／吉本興業

首藤「揉め事や喧嘩がいっぱい起こって、ふだん使わないような荒っぽい関西弁がいっぱい出てきて（笑）、とても面白い映画です！」

木南「関西弁を使う役は今までにもありましたけど、あそこまで声を張り上げてバトルする役は初めてでしたし、お父さん役の大杉漣さんとの掛け合いなんて、もうホントに楽しかったですね。大阪の下町を舞台に、今の時代に失われがちな人間同士の懐かしい関係性を描いている作品ですけど、そのことを恥ずかしがらず、人と関わることって素敵だなと、この映画を通して思っていただけたら嬉しいです」

地元の〝世界一〟PR

「JIMOT CM」上映

「地域の住民だからこそ知っている、地元の〝世界一〟を全国に知らせたい」をコンセプトに、地元の魅力をCM作品にして競い合う地域発信型プロジェクト「JIMOT CM COMPETITION　東日本上映会」が24日昼、沖縄コンベンションセンター・シアター3で開催された。この日は東日本の23作品と海外の6作品のCMが上映され、観客はゲストのナインティナインの岡村隆史、平成ノブシコブシら人気芸人たちと一緒に作品を楽しんだ。

地元のCM作品は、笑えるもの、凝ったもの、しゃれたものなど、バリエーションもさまざま。岡村たちがツッコミを入れながらの上映会となり、観客の笑いも絶えなかった。

ゲストとして登場したナイナイ岡村（右）は、上映中の作品に独自の視点でコメントし、会場を沸かせていた

きょう午後2時からは沖縄コンベンションセンターのシアター3で「JIMOT CM COMPETITION　西日本上映会」を実施。こちらでは西日本の作品23本と、被災地の小学生たちが作り上げた「青空CM」3本が上映される。さらに夕方6時半からはビーチステージで「JIMOT CM COMPETITION」が行われ、沖縄県を除いた46都道府県から1作品、沖縄県の41市町村から1作品のグランプリ作品が決定する。

香港の企業と吉本興業提携

映像事業、アジア流通

24日、吉本興業は香港のCONTENT LAND INC.と宜野湾市内で記者会見し、映像コンテンツのアジア流通に関して事業提携することを発表した。香港をベースに番組制作・プロデュース、チャンネル運営、宣伝広告業務などを手がけるCONTENT LAND INC.は、アジア各国の大手メディアと太いパイプを持ち、そのネットワークはオーストラリア、ニュージーランドから北米、ヨーロッパにまで広がっている。吉本興業は、海外への番組販売の窓口をCONTENT LAND INC.に一元化することで、これまでにない規模とスピード感で映像コンテンツをアジアへ流通させることが可能になるという。

版権処理やローカライズなど煩雑な作業を一括して請け負う

『JURY』日本初公開

キム・ドンホ氏初監督

沖縄国際映画祭の名誉チェアマンを務めるキム・ドンホ氏が初監督した作品『JURY』が、映画祭の特別招待作品として、24日、日本で初めて公開された。上映後、キム・ドンホ氏は会場となった沖縄コンベンションセンター・シアター2の壇上に登壇し、この映画に込めた思いを語った。

映画祭審査の過程における審査員たちの心の葛藤や映画への愛を描写した『JURY』は、釜山国際映画祭をはじめ、数多くの映画祭でディレクターや審査員を経験したキム・ドンホ氏の「映画や映画祭は監督にとって夢の実現の場である」という思いから生まれた作品。「次回は沖縄、日本の皆さんをより感動させる作品を観てもらえるようにしたい」と抱負も語った。

釜山国際映画祭を創設し、アジアを代表する映画祭にまで育て上げたキム・ドンホ氏

『JURY』は映画祭最終日の30日に桜坂劇場でも上映される　©INDIESTORY Inc.

桜坂映画大学 スタート

千葉真一開講宣言

薬師丸ひろ子も〝講義〟

桜坂劇場で24日、千葉真一名誉学長による開講宣言で桜坂映画大学がスタートした。千葉は「肉体は俳優の言葉である」との持論やこの大学から俳優を誕生させたいと抱負を語ったあと、藤井隆学長、なだぎ武、バッファロー吾郎、椿鬼奴、ジャルジャルによる生オーディオコメンタリー付きで『仁義なき戦い　広島死闘篇』の上映が行われた。

第2講目の『セーラー服と機関銃　完璧版』では、2年連続でスペシャルゲストとして薬師丸ひろ子が登壇。かつての撮影時は朝9時からリハーサルが始まり、夜11時にようやく本番に入るなど、相米慎二監督に徹底的にしごかれたこと、そしてこの作品が大きな通過点になったことなど、数々のエピソードを披露。昨年に引き続き、同作品の主題歌を赤ペラで熱唱し、会場に朝5時半から並んだという熱狂的なファンをはじめ、会場を埋め尽くした観客の心をしっかりとらえていた。

沖縄には本土復帰前から50回以上来ているという千葉真一が名誉学長を務める

千葉名誉学長が舞台を降りたあとは、『仁義なき戦い』大好き芸人のなだぎ武、バッファロー吾郎、椿鬼奴、ジャルジャルが藤井隆学長がその魅力を語り合った